

## 学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 号		
所属	保健学専攻 生涯保健学 分野 成人看護学 領域	氏名	山口 大輔
学位論文題目	Assessment of depressive tendency, coping strategies and type D personality in Japanese patients with coronary artery disease		
論文審査担当者	主査 市川元基 副査 下里誠二, 松永保子		
<p>(学位論文審査の結果の要旨)</p> <p>冠動脈疾患患者では社会的抑制と否定的な感情を特徴とするタイプDパーソナリティが心理的危険因子として関連があることが知られている。またタイプDパーソナリティの冠動脈疾患患者では不安と抑うつ症状が多く見られている。山口はこれらに注目し、日本人の冠動脈疾患患者におけるタイプDパーソナリティ、抑うつ症状、ストレスに対するコーピング方略について、アンケートを用いて調査した。</p> <p>対象は信州大学医学部附属病院に入院して経皮的冠動脈インターベンションを受けた108名の患者であり、Zung Self-Rating Depression Scale, Type D Personality Scale, Tri-Axial Coping Scale 24を用いて無記名自記式質問紙調査を行った。そのうち100名のデータを用いて解析を行った。</p> <p>冠動脈疾患患者の年齢は30～70歳代で、中央値は66歳であり、疾患は急性心筋梗塞と狭心症であった。このうち常勤の勤務者は55%、非常勤の勤務者は9%、非勤務者は36%であった。タイプDパーソナリティと判定されたのは44%、抑うつ傾向と判定されたのは59%であり、抑うつ傾向ではタイプDパーソナリティが多く(オッズ比：2.78、95%信頼区間：1.06-7.24)、常勤の勤務者が少なかった(オッズ比：0.23、95%信頼区間：0.08-0.64)。コーピング方略に関しては、抑うつ傾向では「放棄・諦め」、「責任転嫁」が多く、「計画立案」が少なかった。またタイプDパーソナリティでも「放棄・諦め」、「責任転嫁」が多く、「肯定的解釈」が少なかった。これらの結果から、日本人の冠動脈疾患患者において、抑うつ傾向になりやすいパーソナリティや勤務形態が明らかになり、抑うつ傾向やタイプDパーソナリティを示す冠動脈疾患患者の取りやすいコーピング方略を明らかにすることができた。</p> <p>以上より山口は日本人の冠動脈疾患患者の抑うつ傾向、タイプDパーソナリティ、コーピング方略の関連を科学的に明らかにした。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			